2008年6月号　目次

【トピックス】

平成19年度　クラミジア抗体検査のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

要注意健康食品シリーズ⑦　－最近の強壮・強精用健康食品－　・・・・・・・・　2

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告　5月　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

感染症発生動向調査における病原体検査　5月　・・・・・・・・・・・・・・・　8

【検査結果】

由来別病原菌検出状況　5月　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（20年度5月分）・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

平成19年度　クラミジア抗体検査のまとめ

近年、特に若年者の間でAIDSやクラミジアなどの性感染症が増加しており、その予防啓発の一環として平成13年度よりHIV検査と合わせてクラミジア・トラコマチス抗体について無料匿名検査を実施しています。平成19年度は7か所の福祉保健センターとAIDS市民活動センターで週1回行っている夜間健診、結核予防会で行っている土曜健診の計9か所で採取された血清を試料とし、ペプタイドクラミジアIgA及びIgG（明治乳業製）を用いて検査を実施しました。

平成16年度から平成19年度までのクラミジア抗体検査受診者数と陽性者数、陽性率を表1に示しました。平成17年度はHIV即日検査の導入に伴い、結果が出るまでに1週間かかるクラミジア検査は受診者が減少したと考えられます。しかし、その後福祉保健センターでの受診者増加がみられ、平成19年度は過去最高の受診者がありました。

表1　平成16年度～平成19年度の受診者数と陽性者数と陽性率

年度	受診者数(人)	陽性者数（人）＊	陽性率（%）
平成16年度	2140	595	27.8
平成17年度	1689	501	29.7
平成18年度	2117	713	33.7
平成19年度	2411	756	31.4
計	8357	2565	30.7

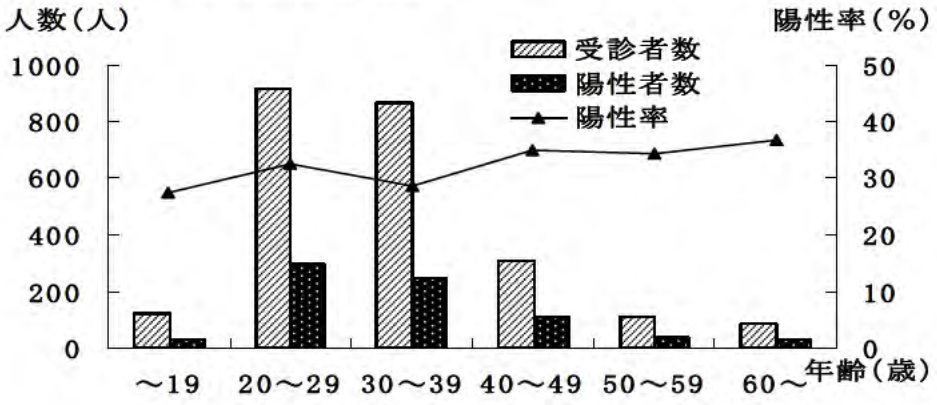
＊　IgA、IgGいずれかが（±）以上のものを陽性とした

平成19年度の男女別受診者数、陽性者数と陽性率を示しました（表2）。受診者数は男性が女性の約2倍と多いですが、陽性率は女性のほうが高い傾向にありました。

表2　平成19年度　男女別受診者数、陽性者数と陽性率

	受診者数（人）	陽性者数（人）	陽性率(%)
男性	1531	391	25.5
女性	879	365	41.5
不明	1	0	0
合計	2411	756	31.4

平成19年度の年代別受診者数と陽性者数及び陽性率について以下の図に示しました。20歳代、30歳代の受診者が多く、陽性率は各年代とも30%前後でした。



平成19年度年代別受診者数と陽性者数、陽性率

【　細菌担当　】

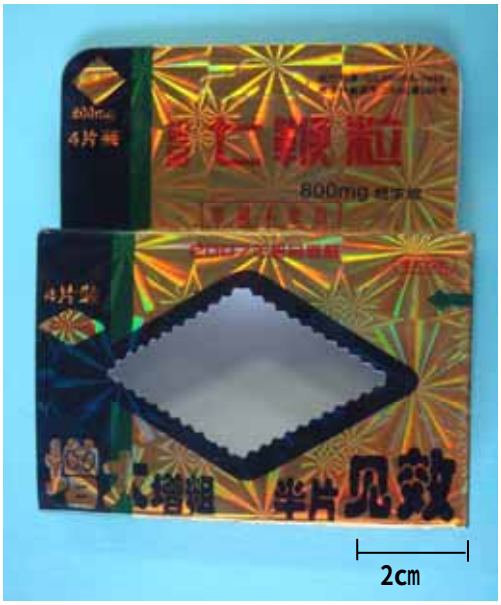
要注意健康食品シリーズ⑦

－最近の強壮･強精用健康食品－

昔からの強壮･強精剤といえばヨヒンベ、ニンジン、クコ、オウギ、インヨウカク、ロクジョウ、ゴオウなどの生薬が配合されているものが挙げられます。時代が移り、1998年に青い菱形の錠剤バイアグラ（Viagra®）がアメリカPfizer社から発売されました。バイアグラは勃起不全（ED）に適用され、効き目が画期的なため、売り上げはスタートから好調でした。その後順次世界各国で承認され（日本は1999年）、承認国の数は100以上となっており、世界で広く処方されている医療用医薬品の1つとなっています。しかし、その一方でバイアグラそっくりの偽造品が出回るようになりました。多くはインターネットによる個人輸入であり、2006年にPfizer社は個人輸入の半数以上が偽造品だと発表しています。Pfizer社によると、偽造品は外見からは正規品と区別がつかないほど精巧に作られていながら、含有する有効成分のシルデナフィルが規定量（日本向け：最大50mg、欧米向け：最大100mg）とは異なり、10mg程度から400mg程度までバラツキがある上、不衛生な状態で製造されているとのことです。

このような商品が出回る中、平成20年5月に市内A区でバイアグラに似た中国産強壮･強精用健康食品による健康被害（疑い）がありました。70歳代男性が「七鞭粒（しちべんりゅう）」という商品（写真1）を滋養のため一粒服用後、低血糖をおこして病院に入院し、数日間低血糖の状態が続いたとの報告でした。当所でこの商品の残品の成分を調べたところ、シルデナフィル48mgと血糖降下薬のグリベンクラミド67mg（通常使用量の20倍以上）が検出されました。この事例については市保健所医療安全課が記者発表（資料：http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/200805/images/php4dQu3P.pdf ）をして各新聞に掲載されました。

また、これと同様の事例がB区でもありました。見た目はA区のものと全く同じ「七鞭粒」（写真2）と「金威哥（きんいか）」（写真3）を市民が持っており、「金威哥」を服用した後、低血糖をおこして入院したとのことでした。「金威哥」からはシルデナフィル100mgのみ検出され、低血糖を起こす成分は検出されませんでした。また、「七鞭粒」からもシルデナフィル93mgのみ検出され、グリベンクラミドやその他の血糖降下薬は検出されませんでした。今回の場合、服用した残品ではないことや、その他にも同様の漢方薬などを服用していたため、「七鞭粒」や「金威哥」と低血糖との因果関係は不明です。



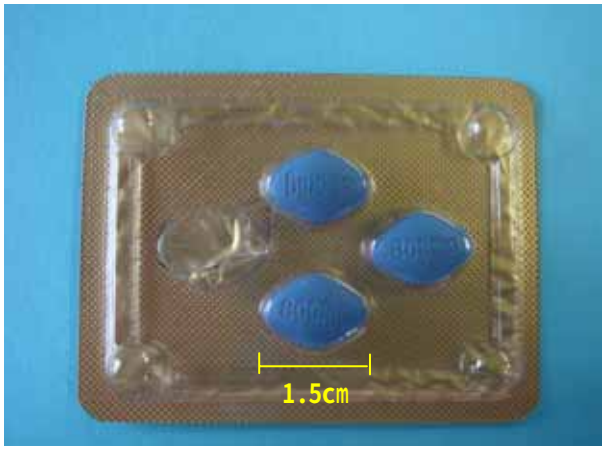


写真１　Ａ区の商品「七鞭粒」の残品
左：パッケージ
上：中味

写真２　Ｂ区からの商品「七鞭粒」
（残品ではなく参考品）

写真３　Ｂ区からの商品「金威哥」
（残品ではなく参考品）

最近、このような強壮･強精用健康食品中に血糖降下薬が添加されている事例がいくつかの都市で報告されており、海外では死亡事例も出ています。また、一見同じ商品でも含有成分が違うという事例は珍しくありません。過去に蟻力神（イーリーシン･ありんこパワー）についても、シルデナフィルが検出されたり、されなかったりということがありました。今回被害にあった人は、現地で売られている商品を服用したということで、お土産にも注意が必要です。

また、正規バイアグラについてもFDA（アメリカ食品･医薬品局）は「バイアグラは死亡事例を含む重篤な心血管系等の障害がある」と報告しています。さらにPfizer社（ドクターレター）は「高血圧及び狭心症の薬である硝酸剤あるいはニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド等との併用により降圧作用が増強し、過度に血圧を下げることがある」と警告しています。

安くてお手軽な偽造品は、今や「効く」、「効かない」と言うレベルではなく、命にかかわる事もあります。このような偽造品を服用することは避け、病院で医師の診察のもと、正規品を処方してもらうのが賢明です。その他、強精･強壮用健康食品についての詳しい情報は厚生労働省ホームページをご覧ください。（http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/diet/other/050623-1.html）

また、当所では過去に強精･強壮用健康食品について、検査情報に掲載していますので、そちらの記事も参考にご覧ください。（http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/yakuzi_inf/higai/sildenafil.html）

【　薬事担当　】

感染症発生動向調査委員会報告　5月

≪今月のトピックス≫

- **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、過去5年間で最も高い水準で、注意が必要です。**
- **麻しん報告数は第20週から減少傾向がみられています。緊急対策として、未接種･未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中です。**
- **腸管出血性大腸菌感染症は、5月としては過去5年間で最も多く、注意が必要です。**

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹（病院）定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年4月21日から平成20年5月25日まで（平成20年第17週から第21週まで。ただし、性感染症については平成20年4月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 年　週－月日対照表

第 17 週	4 月 21～27 日
第 18 週	4 月 28～ 5 月 4 日
第 19 週	5 月　5～11 日
第 20 週	5 月 12～18 日
第 21 週	5 月 19～25 日

全数把握の対象

＜麻しん＞

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。（国立感染症研究所ホームページ http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html）

横浜市では、第21週(5/19～25)までの報告数は1316例で、全国の報告数8435の15.6%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では10代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。

5月1日～25日までの報告数は、176例と、2月304例、3月371例、4月317例に比べて少なくなっていますが、昨年は5月から6月にかけて流行しており、引き続き注意が必要です。

2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種･未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html

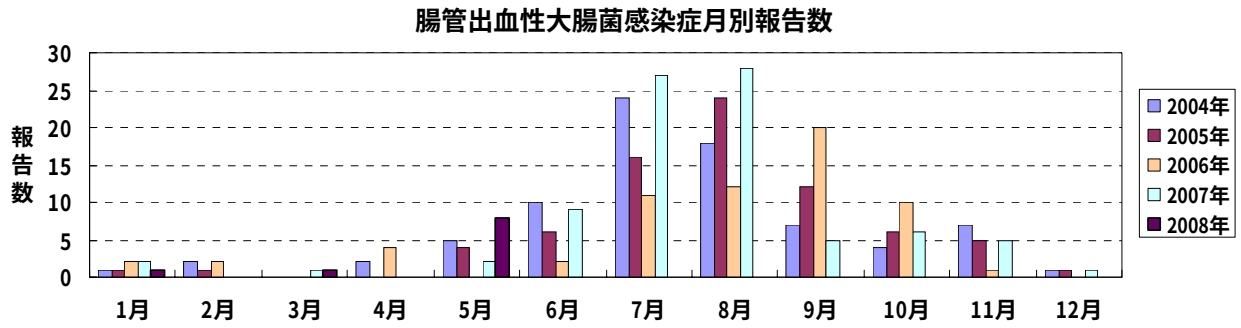
1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種･未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)」
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html をご覧ください。

《日本は、2008年～20012年の5年間で、麻疹排除を目指します》

① 風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。
② 1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底。
③ 5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施。

＜腸管出血性大腸菌感染症＞
5月の報告数は、29日現在で8例と、過去5年間でもっとも多くなっています。年齢の内訳は、10歳未満が1例、10代が1例、20代が1例、30代が2例、40代が1例、50代が1例、60代以上が1例でした。毎年、夏に報告が多くなりますので、注意が必要です。例年レバ刺し生食による感染が見られます。



啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf

定点把握の対象

＜A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞
第2週以降増加傾向が続き、第12週から第16週にかけてやや減少したものの、第20週は定点あたり3.15と、この時期としては過去6年間でもっとも高い値となりました。第21週も3.11と高い値が続いています。行政区別では、港北区(9.29)、緑区(8.00)、瀬谷区(6.50)に多くみられました。川崎市は3.61、神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.36と、どちらも横浜市より高い値です。全国は3.02でした。今後も注意が必要です。
「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報」
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0502.pdf もあわせてご覧ください。

＜感染性胃腸炎＞
年末にかけて多く報告され、1月以降は横ばいが続いていましたが、第8週からは増加し、第11週は定点あたり13.56と過去5年間と比べて最も高い値になりました。横浜市では、第12週以降は減少し、第21週には定点あたり5.55と例年よりやや高めの水準になりました。行政区別では、中区(15.00)、旭区(10.50)に多くみられました。川崎市は8.36とかなり高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は6.90、全国は7.02と、いずれも横浜市より高い値でした。今後の動向に注意する必要があります。
学校等における集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

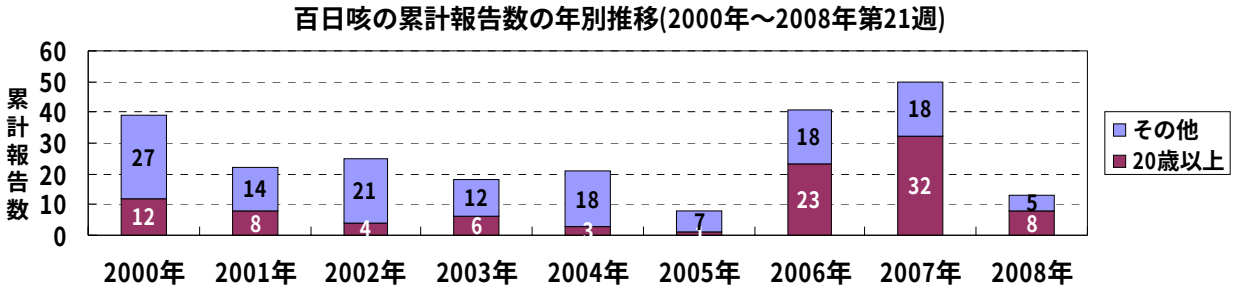
＜水痘＞
第19週、第20週と増加しましたが、第21週は少し減少して定点あたり1.39でした。川崎市は2.00と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.29でした。

＜手足口病＞
第21週は定点あたり0.17で、まだ増加の兆しは見られません。しかし、5月に中国で手足口病の流行が見られており、例年夏にかけて増加してくることから、今後注意が必要です。
中国での手足口病の流行について
(英文：WHO Disease Outbreak News http://www.who.int/csr/don/en)

＜百日咳＞

第17～21週の報告は7人で、そのうち5人が20歳以上でした。全国的には例年より高めの水準が続いており、成人の報告例が多くなっています。

成人では、長期の咳または発作性の咳だけのことが多く、他の疾患との鑑別が困難なために診断が遅れ、感染源となって周囲へ感染を拡大してしまうこともあります。百日咳は、母体からの移行抗体が有効に働かないために、乳児早期から罹患する可能性があり、特に、生後6か月以下では重症化する危険性があります。早期の予防接種が必要です。（三種混合ワクチンとして、生後3か月から接種できます。）



＜ヘルパンギーナ＞

第21週は定点あたり0.17と、少し増加の兆しが見られます。全国では0.37と横浜市より高い値でした。例年、6月に入り急に増加してくるため、これからの季節は注意が必要です。

＜性感染症＞

性感染症は、診療科でみると産婦人科系（産婦）の11定点、および泌尿器科・皮膚科系（泌・皮）の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

4月は、3月に比べて、横ばいもしくは減少傾向です。15～19歳の若年については、男性は報告がありませんでしたが、女性は性器クラミジア感染症と性器ヘルペスウイルス感染症で1例ずつ見られました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ（内科）定点：5か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

＜ウイルス検査＞

2008年5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は28件（鼻咽頭ぬぐい液）、眼科定点は1件（眼脂）、基幹定点は11件（咽頭ぬぐい液4件、血清3件、髄液、便、血液、血漿各1件）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎26人、胃腸炎1人、発疹1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は高CK血症2人、脳炎1人、咽頭扁桃炎1人、薬剤性過敏性症候群1人でした。

6月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス2型が分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者3人からヒトメタニューモウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

＜細菌検査＞

5月の感染性胃腸炎関係の受付は10菌株で起因菌は検出されませんでした。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は5件でA群溶血性レンサ球菌が3件から検出されました。

【 感染症・疫学情報課　検査研究課（細菌担当・ウイルス担当） 】

感染症発生動向調査における病原体検査 5月

感染性胃腸炎

2008年5月

検査年月	5月		2008年1～5月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数		10		41
菌種名				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				
毒素原性大腸菌				1
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出				40

呼吸器感染症等

2008年5月

検査年月		5月		2008年1～5月	
定点の区別		小児科	基幹	小児科	基幹
件数		5		29	1
菌種名					
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	
	T3	1		2	
	T4	1		6	
	T6				
	T12			7	
	T13			1	
	T25	1		4	
	T28			2	
	T 型別不能				
B群溶血性レンサ球菌					
G群溶血性レンサ球菌					
インフルエンザ菌					
パラインフルエンザ菌					
黄色ブドウ球菌					
髄膜炎菌					1
インフルエンザ菌					
不検出		2		6	0

T（T型別）：A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 細菌担当 】

由 来 別 病 原 菌 検 出 状 況 5月

2008年5月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、飲料水等	
	5月	2008年1-5月	5月	2008年1-5月	5月	2008年1-5月
コレラ O－1						
O－1以外				4		
赤痢菌 A						
B						
C						
D	2	3				
その他						
チフス菌		1				
パラチフスA菌		4				
その他のサルモネラ						
O4群		1				
O7群		2				
O8群						
O9群						
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌						
毒素原性大腸菌		1				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	8	11				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ビブリオ						
黄色ブドウ球菌		4				
カンピロバクター	1	18				
ウェルシュ菌		6				1
A群溶血性レンサ球菌	3	23				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ菌		1				
その他		1				
取り扱い件数	111				70	

【細菌担当】

衛生研究所WEBページ情報

（アクセス件数･順位　20年度4月分、電子メールによる問い合わせ･追加･更新記事　20年度5月分）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2008年4月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年5月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加･更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1　利用状況

(1)　アクセス件数（2008年4月）

2008年4月の総アクセス数は、251,734件でした。主な内訳は、感染症66.5%、食品衛生13.4%、保健情報6.3%、生活環境衛生1.8%、検査情報月報5.9%でした。

(2)　アクセス順位（2008年4月）

4月のアクセス順位（表1）は、「百日咳について」が第1位でした。

感染症情報センターによると、2008年第21週（5月19日～5月25日）における百日咳の定点当たりの報告数は、横ばいでしたが、過去5年間の同時期と比較すると、かなり多い状態で、推移しています。

横浜市では、成人の報告例が多くなっています。

2位が「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」、3位が「マイコプラズマ肺炎について」でした。

夏に流行期を向かえる「手足口病について」が8位に入りました。

表1　2008年4月　アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	百日咳について	21,751
2	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	14,023
3	マイコプラズマ肺炎について	8,384
4	EBウイルスと伝染性単核症について	6,424
5	サイトメガロウイルス感染症について	3,900
6	性器クラミジア感染症について	2,820
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,795
8	手足口病について	2,584
9	大麻（マリファナ）について	2,516
10	トキソプラズマ症について	2,490

データ提供：行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年5月)

2008年5月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、8件でした(表2)。

表2 2008年5月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
感染症届出様式について	1	衛生研究所
相互リンクについて	2	衛生研究所
マイコプラズマ肺炎について	1	衛生研究所
アニサキスについて	1	衛生研究所
医療機関からのホームページリンク更新について	1	衛生研究所
デング出血熱について	1	衛生研究所
HIV・肝炎ウイルスについて	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年5月)

2008年5月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 2008年5月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
5月2日	第15回衛生研究所展 ～横浜市衛生研究所施設公開のお知らせ～	追加
5月2日	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報	追加
5月7日	紫外線と皮膚・眼について	追加
5月14日	二類感染症に「鳥インフルエンザ(H5N1)」が追加されたことに伴う、届出基準・届出様式の変更	更新
5月16日	感染症に気をつけよう(5月号)	追加
5月22日	獣医師の届出基準・感染症発生届(動物)の変更	更新
5月29日	英字略語集(ABC順)	更新
5月29日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】